

平成 30 年度第 1 回下田地区協議会 会議録（概要）

●会議を開催した日時及び場所

日 時 平成 30 年 5 月 31 日（木） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
場 所 三条市役所下田庁舎 3 階 301 会議室

●出席委員(◎会長、○副会長)

渡 辺 定 一	坂 井 利 彦	○熊 倉 一 昭	◎清 水 昭
西 堀 ヤウ	渡 邊 貴 行	西 潟 芳 博	山 田 宏 高
藤 田 五 十 一	近 藤 喜 美 子	今 井 明 夫	山 屋 祐 介

以上 12 人

(欠席委員)

坂 井 良 雄 近 藤 昌 志

以上 2 人

●出席者

総務部長 駒 形 一 興	市民部長 渡 辺 健
政策推進課長 平 岡 義 規	地域経営課長 山 村 吉 治
下田サービスセンター長 長谷川 考 基	
(政策推進課) 係長 前 山 直 人	
(地域経営課) 課長補佐 新 田 泰 章	
(下田サービスセンター) 総務グループ長 太 田 正 栄	
一般任用主事 富 樫 靖 章	

●傍聴者

なし

●報道機関

三條新聞社

●内 容

- 1 開 会 (14:00 開会)
- 2 出席者紹介
- 3 議 事

(1) 会長及び副会長の選出について

会長に清水昭委員、副会長に熊倉一昭委員を選出

(2) 行政評価に基づく平成 29 年度事後評価について

(政策推進課長 説明)

資料No. 1 - 1 ～No. 1 - 5、参考資料No. 1 ～No. 3 により行政評価に基づく平成 29 年度事後評価について説明

～質 疑～

(山屋委員)

観光入込客数、外国人観光客数はどのように算出しているのか。宿泊の対応について、二次交通や民泊についてはどのように取り組んでいくのか。

(政策推進課長)

観光入込客数の根拠については、各観光施設の各月の入場者数、イベントの主催者発表数の積み上げとなっている。外国人観光客数についてもその中の積み上げとなっている。

宿泊については、民間の宿泊施設を利用いただいているところであるが、国が進めている民泊などについても今後の検討材料であると認識している。

(山屋委員)

平成 30 年度に前期実施計画が終了するが、学校規模の適正化について、とりわけ下田地域の小学校の適正化について再度見直すつもりはあるのか。また、地域の住民から話を聞く機会を作ったらどうか。

(総務部長)

人口が減っていく中で、複式学級の必要性がより高まってくるかもしれないが、学校規模の適正化という面からは、見直す予定は今のところ持っていない。

また、そこまでは至っていないところであるが、少子化により学校運営において懸念される面があれば、教育委員会と地域とで検討を進めていく必要もあるため、いったんは意見をいただいたことについて教育委員会に申し伝える。

(西潟委員)

子どもが少ない学校に通わせたくなくて、三条地区の学校に通わせる人もいる。児童が少ない状況を市としてはどう考えているのか。地域の人が子どもと交わる機会もなくなる。

(総務部長)

少子高齢化社会にどう対応していくのかを示したのが平成 27 年度に策定した総合計画であり、下田地区においては、まずは地域のコミュニティの維持を推し進める中で、地域おこし協力隊を始めとする各種取組を進めている。

特に子ども達の現況に対する意見をいただいたことについては、所管課に申し伝える。

(今井委員)

どのぐらい稼げると下田で農業ができるのか、農林課は下田地区の農業において営農の形態をガイドラインとして示す検討はしているのか。

また、6次産業化については、笹団子の事例が認定されており、サツマイモやそばなどは他市でも事例がある。専業で成功している例、兼業で成功している例をしっかりと検討し具体的に示してほしい。

(政策推進課長)

地域において営農形態が異なり、また、個々様々な規模で営農されている中で、一概にガイドライン等を示すことは困難であると考えている。

市としては、まずは、担い手支援の取組などにより一例でも多くの成功事例をつくっていくことに主眼を置いている。

(地域経営課長)

今年度、下田塾で市内市外の方を対象に6次産業化の職業訓練を行う。

また、地域おこし協力隊取組の中で、芋主プロジェクトを行っており、地域の特産品づくりに取り組んでいるところである。

さらに、地域おこし協力隊として半農×半X（スポーツなど得意分野）といった取組も行っている。

(今井委員)

集落の高齢化が進んでいく中で、愛媛県の出雲市稗原町に「ひえばらお助けマン互助会」という家事代行の助け合い制度がある。下田の集落でぜひ検討をしていただきたい。

(政策推進課長)

いただいた意見については、一つの参考にさせていただきたい。

(地域経営課長)

参考に申し上げれば、昨日から順次、下田地域 64 自治体について、集落座談会を行っている。その中でどういった課題があるのかをひざ詰めで自治会長、民生委員等に話を聞いているところである。

(山田委員)

コミュニティスクールについて、三条市はどのように考えているのか。

(政策推進課長)

大島地区と栄地区がモデル地区として取組を行っているところであり、市内各地域で取り組むとする方向は持っているが、具体的な今後の動きについては教育委員会に確認し、報告する。

(3) 新市建設計画掲載事業の進捗状況について

(政策推進課長 説明)

資料No. 2-1～No. 2-4 新市建設計画掲載事業一覧表等で進捗状況及び平成 30 年度の事業概要等について説明

～質疑無し～

(4) 辺地総合整備計画について

(地域経営課長 説明)

資料 No. 3 辺地総合整備計画について説明

～質疑～

(今井委員)

辺地の財政支援は買い物弱者対策には使えないのか。

(地域経営課長)

基本的には公共施設が対象であり、一定の要件から適債性が問われる。市が事業主体となれば可能性はないわけではない。

(今井委員)

三条市にはデマンド交通があるが、僻地の集落の買い物弱者や医療に通えないというような問題はないのか。集落座談会ではそうしたことも聞き取りしてほしい。

(地域経営課長)

そこも含めて聞き取りをしていきたい。

(5) その他

～質疑～

(政策推進課長)

例年この地区協議会は、年 1 回開催しているが、今年度は後期実施計画の策定年であるため、9月から 10 月頃に再度皆様に集まってもらい、計画について意見をいただきたいと考えている。

(会長)

西潟委員と山屋委員が発言された教育に関する事項を教育委員会の方でよく調べてほしい。

(山田委員)

今後は教育委員会からも出席してほしい。

(総務部長)

いただいた意見については教育委員会にしっかり伝え、まとめた回答を後日配付する対応を取らせてもらう。

(山田委員)

少子化対策については、なりふり構わず継続して行ってほしい。

4 閉 会 (16:00 閉会)